



首都圏本部における柔軟な働き方のさらなる 実現について(2024年10月実施)

詳細提案を受ける! ③

組合: 中野統括センター乗務ユニットは、どのようなイメージでいるのか?

会社: 中野電車区(中野南乗務ユニット)、中野車掌区(中野北乗務ユニット)になる。

組合: それぞれ統括センター内、各駅の出面数は確定しているのか。

会社: 各駅に管理体制は置く考え。将来的に変わる可能性はある。首都圏本部内、管理者相当が泊まっていない駅はない。見直すとなれば、首都圏本部の判断となる。

組合: 中野統括センターで、管理・交代 10 のうち6は駅の泊りでよいか。

会社: その通りだ。

組合: 現行の中野電車区の一般変形等 11 は、どのような内訳なのか?

会社: 2が輸送総合の事務。9は指導担当である。

組合: 当務主務はどこに当たるのか。企画業務のユニットリーダーがいるが、どのような位置づけなのか?

会社: 当務主務は乗務員であり、区所内の運用となる。日勤運用をしなさいとは指示していない。

組合: 休日出勤で出勤後、企画業務のユニットリーダーが企画業務をしていて乗務しない。このようなケースが駅でも出ている。職場に人がいるのに出改札を担当する人がいない。最終的に業務量に入っていない人が業務を担って、問題がブラックボックス化されている。首都圏本部として問題意識はあるのか。

会社: 現状は理解している。中野に限らず、内勤運用している箇所があることも承知している。一概に内勤運用を妨げるものではない。必要な業務があるからやっている。乗務員として箇所に配置している。まず乗務が基本という考え方を区所に伝える。日々のオペレーションを回す、運営することが大事だ。

組合: 現場では管理者のコミュニケーションがほぼなく、休日出勤をしたら人がいて、なぜ呼び出されたのかと疑問の声が全国的に蔓延している。首都圏本部から徹底する事。

会社: 了解した。

組合: その月の出面数は、いつ誰が決めているのか。職場では納得感がない!

会社: 休日明示を作るタイミングで想定する。現場長発信もあるが、様々調整をした上で、勤務指定をしていく。

組合: どの職場でも要員が足りていると言われ、職場と考えが乖離している。首都圏本部と管理者とのコミュニケーションを取って、出面数と本来業務する人数がマッチしているのか議論して、認識を合わせる事。

会社: 了解した。

組合: 今後統括センターになって駅の管理者が、乗務ユニットの当直をやる事はあるのか?

会社: それはあり得ると考えている。

組合: 営業統括センターにも乗務員経験者がいる。駅を主体で乗務員の業務も行う等、首都圏本部としてジョブローテーションの趣旨に沿って、モチベーション向上させて欲しい。

会社: 統括センター内の乗務ユニットにて乗務員をやる事はあると考えている。

主たる業務を基本に、『安全・健康・ゆとり』のある

職場環境を全組合員・社員と議論し実現しよう!